

2007年12月号

シビル メール ニュース

これまでに配信されましたシビルメールニュースは、「日本大学理工学部土木工学科」のホームページ (<http://www.civil.cst.nihon-u.ac.jp>)より『OB向け情報』→『シビルメールニュース』でご覧いただけます。なお、シビルメールニュースをE-mailにて配信ご希望の方または郵送を希望される方は、卒業年次・氏名・勤務先・配信メールアドレスを明記の上、mailnews@civil.cst.nihon-u.ac.jpで申し込み下さい。

発行責任者 土木工学科教授・教室主任 岸井隆幸

平成 19 年度日本大学理工学部学術賞を齋藤利晃准教授が受賞

11月9日（金）駿河台校舎1号館CSTホールにて、学術賞等表彰式が行われました。理工学部学術賞2名、学会・協会賞71件、学位取得者40名が表彰され、理工学部学術賞を本学科から齋藤利晃准教授が受賞されました。下記に齋藤利晃准教授からのコメントを掲載いたします。



「理工学部学術賞を受賞して」 齋藤利晃准教授

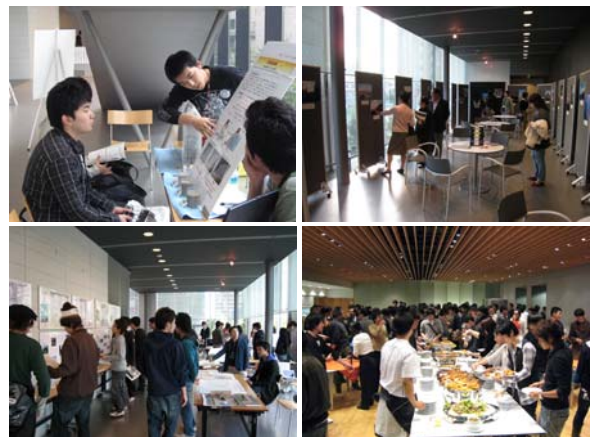
この度、平成19年度理工学部学術賞という大変栄誉ある賞を頂き、11月9日には妻とともに表彰式に出席致しました。

着物で臨んだ妻を待ち受けていたのは、教員の妻たるもののあるり方に関するありがたいお話の数々。授賞式における総長に始まり懇親会では学部長を始め多くの方々から、「家に帰らないのは、どこかで遊び呆けているのではない！」ということを熱心に伝えてくださった。これが、授賞式に妻を呼ぶ理由であるらしく、皆さんの日常の苦勞が偲ばれた。一方で、「雨霞のように仕事をやるから家には帰さんぞ！」という意思も感じられ、やや暗い気分にもなった夜でもありました。

学術賞の受賞は決して一人ではなし得ないことは自明の理であります。赴任して以来、公私にわたり指導をしてくださった竹澤先生、田中先生、松島先生を初めとする諸先生方、受賞のきっかけとなる成果をあげた吉田助手および高橋君（現オルガノ株式会社勤務）、卒業生のみんなに心より感謝を捧げたいと思います。

シビルエキスポ（青駿祭-土木博）が開催されました

11月2日（金）から4日（日）までの3日間、日本大学理工学部駿河台校舎にて青駿祭が行われ、その中の土木工学科の出展としてシビルエキスポが開催されました。1号館3階をすべて土木工学科で借り切り、円形ベンチのあるエレベーター前フロアでは土木のPRビデオ上映を行って来場者を歓迎いたしました。今年の参加者は3日間で延べ500名に達し、大盛況となりました。このシビルエキスポは研究室ごとに各ブースとして出展する形式を取っており、来場者には20の研究室に参加していただきました。それぞれが趣向を凝らした出展を企画し、熱心に説明を行いました。



シビルエキスポ会場風景

最終日の 18 時からカフェテリアにて懇親会が行われ、実行委員が主体となって場を大いに盛り上げてくれました。学生主体となって行ったシビルエキスポに先生方も「よくがんばった！」と学生諸君を激励する場面もあり、大変微笑ましい光景が各所で見られました。

また、恒例の写真展は過去に例を見ない大混戦で 3 点が同票 1 位の開票結果となりました。急遽、会場での拍手による決選投票となり、宮田秀太君（野村研究室 大学院 1 年）が最優秀賞に輝きました。実行委員長 宮澤功君（山敷研究室 大学院 1 年）と写真展最優秀賞受賞者 宮田秀太君からコメントをいただきましたので以下に掲載いたします。

CIVIL EXPO 実行委員長 宮澤 功 君 「CIVIL EXPO を終えて」

この度は皆様のお陰で CIVIL EXPO 2007 を無事に終える事が出来ました。来場者数は 502 名を数え、昨年より約 100 名増える結果となり多くの方々に来場していただきました。

今回 CIVIL EXPO を通じて感じた事は、人との繋がりの大切さでした。それは、実行委員同士の意見交換、意思疎通・情報伝達の重要性、様々な人と話す機会などを通じて新たに物事を多角的に捉えるきっかけになった事、多くの OB, OG の方々の来場に日大土木の強みを感じることができたからです。こうした人と人との繋がりが基盤の目の様に広がり、自分自身の財産になっていくのだなと感じました。そして CIVIL EXPO という学生主体の行事を先生方が応援してくれる本学科は学力だけではなく人間力をも育成する力を秘めているのではないかとも感じました。今後ともこの様な行事が長く続き、より良い CIVIL EXPO になって行けば幸いに思います。

最後になりましたが、共に CIVIL EXPO 運営に協力してくれた実行委員の皆様、各研究室の皆様、そしてご指導下さった先生方、本当にありがとうございました。

写真展最優秀賞受賞 宮田 秀太 君

「土木博写真展で最優秀賞を受賞して」

受賞した写真は、千葉県の銚子にあるウインドファームを見学したときに撮影したものです。ブレードの先端までが 100m の大型風車が数基並んでおり、風を受け雄大にブレードを動かしていた風車が強く印象に残っています。大きな構造物のため、全体を撮影するのに苦労しました。しかし、そのおかげで美しい青空を背景に収めることができ、それが皆様の目を引いたようです。

私を最優秀賞に導いてくれた風車は、今もこの青空に負けないくらい雄大で、力強く回り続けています！



最優秀作品「風」

キャンパスウォッチングが開催されました

11月4日（日）船橋校舎 14 号館にてキャンパスウォッチングが開催されました。土木工学科からは高橋正行専任講師が 11 時から 30 分間にわたり土木工学科の紹介と高橋正行専任講師の研究「流水デザイン」について講演を行いました。多数の高校生や、その関係者の方々に参加していただき、土木の仕事や新しい治水・利水の考え方を熱心に聴講されていました。なお、テクノスペース 15（総合実験棟）では 10 時から終日、環境水理実験室にて研究施設ウォッチングが行われ、大津岩夫教授・安田陽一教授・高橋正行専任講師と同研究室の大学院生・卒研生が来場者に対応いたしました。



高橋先生の公開講義



テクノスペースでの研究施設紹介（安田先生）

日大土木 Who's who

日大土木とともに歩んだ偉人を紹介するコーナーです。今回は道路行政の進展に心血を注がれ、戦後日本の道路法制定に尽力されたことで知られる**田中好先生**です。



No. 7

氏名：田中 好（たなか こう）

専門分野：土木法規・土木行政

略歴：

1886年（明治19年） 京都府園部町城南町に生まれる

1912年（大正8年） 私立立命館大学卒業

1918年（大正7年） 内務省・土木局道路課

1922年（大正11年） 鉄道省勤務

日本大学教授を兼任

1936年（昭和11年） 衆議院議員当選

1940年（昭和15年） 全国治水砂防協会監事就任

1947年（昭和22年） 日本道路協会理事就任

1956年（昭和31年） 他界

田中先生は本学において、土木法規の教鞭をとられました。

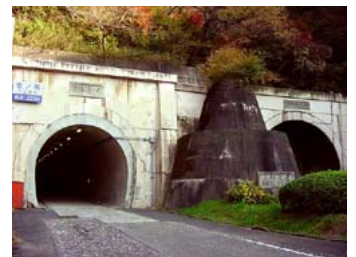
先生は幼くして父親を失い、京都府の会計課に勤める傍ら、立命館大学に通い卒業されました。卒業後は、京都府、兵庫県、内務省、鉄道省の各行政機関で道路行政一筋に16年間を過ごされ、内務省では道路課長として道路法原案の作成に大きく貢献されました。

先生は昭和11年に衆議院に初当選され、以後4期にわたって戦前・戦中・戦後の衆議院議員に在任されました。在任期間中には衆議院商工厚生常任委員長・建設委員会委員など中央政界においても活躍されました。

地元の丹波においても多くの土木行政、特に道路行政に尽力され、当時「歩けば一日かかる」といわれた京都-亀岡間の老ノ坂峠-観音峠に老ノ坂隧道を整備することに尽力され、その結果現在ではその間を10分足らずで移動することが可能になりました。さらに、国道9号老ノ坂・阪鶴道路の改修舗装など、広い範囲の土木行政に携わられました。



旧老ノ坂峠



老ノ坂隧道

昭和15年から昭和31年まで全国治水砂防協会監事、昭和22年から昭和31年まで日本道路協会理事も歴任されています。

先生の功績は大変大きく従四位勲三等を授与されており、その功績を称えて先生の郷土、園部町には「田中好先生頌徳碑」が建立されています。



田中好先生頌徳碑

参考文献：衆議院会議録 建設委員会

野中広務 -素顔と軌跡- 海野謙二著 思文閣出版

土木人物事典 藤井肇男著 アテネ書房

最近の教員活動状況



塩尻弘雄教授が、日本地震工学会主催の「基礎－地盤系の動的応答と耐震設計法に関する講習会」（10月26日（金）、駿河台1号館121会議室にて開催）にて、「建造物の挙動の算定」について講演すると共にパネルディスカッションのパネラーとして参加されました。この講習会は、日本地震工学会の「基礎－地盤系の動的応答と耐震設計法に関する研究委員会」でまとめた「基礎と地盤の動的相互作用を考慮した耐震設計ガイドライン（案）」を、関係する技術者に解説する目的で行われたもので、同委員会の委員として塩尻弘雄教授と仲村成貴助手が参加し、ガイドラインの作成に携わってきました。



鈴木順一准教授と仲村成貴助手が、理工学部中越沖地震調査団の一員として新潟県柏崎市を中心に被害調査を実施しました（10月31日～11月2日）。地盤の震動特性と被害との関連を調査することに注視し、現地では地盤の微小振動を計測しました。この調査には、大学院生の喜多村洋兵君と中倉香代子さんも参加しました。



金子雄一郎専任講師が、11月8日（木）から9日（金）に京都市内で開催された第25回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会に参加しました。

この発表・討論会は、土木学会建設マネジメント委員会主催で行われたもので、公共調達（入札・契約）をはじめ、アセットマネジメント、PFI等の資金調達、リスクマネジメント、市民参加など、インフラ事業に関わる幅広い問題が扱われていました。そのなかで、「LRT整備事業におけるPFI方式の導入可能性に関する定量的検討」と題した報告を行い（発表は研究室の大学院生 阿部光太郎君）、フロアーから今後の展開に関する有益なコメントをいただきました。



大沢昌玄助手と大学院博士前期課程2年小堀貴弘君（齋藤研究室）が土木学会平成19年度全国大会第62回年次学術講演会優秀講演者として表彰されました。講演題目は以下の通りです。大沢昌玄助手からコメントをいただきましたので掲載いたします。

大沢昌玄助手：「戦災復興事業に対する技術者の都市設計思想評価」
小堀貴弘君：「嫌気－無酸素－好気汚泥のグラニュール化に関する基礎的検討」

大沢昌玄助手の談話：

「受賞しました発表論文は、当時の実務者が後に戦災復興の都市設計をどのように評価していたのか明らかにしたものです。

「そんな古いものを」と思うかもしれませんが、実は戦災復興事業は10年近く前まで行われていた都市もあり、さらに現在の大都市の駅前広場（渋谷駅、新宿駅など）や緑豊かな街路（仙台の青葉通など）は戦災復興によってつくられたものです。

受賞を糧とし、過去に敬意を払いつつ、未来に向けてさらに頑張っていきたいと思います。」

なお、大沢昌玄助手は下記の日程で論文・研究発表を行いました。

- ・ 交通工学研究会における論文発表（共著）（11月14日（水）砂防会館）
- ・ 日本都市計画学会における論文発表（主著）（11月18日（日）工学院大学）
- ・ 土木学会土木計画学研究発表会（共著）（11月23～25日 八戸工業大学）